

# 島根県美郷町事例紹介

～ 地域ぐるみの鳥獣対策と言うけれど…～



島根県美郷町役場 安田 亮

## 1. 鳥獣害対策の根本的な問題・整理

「鳥獣対策は誰がやるのか?」「何のためにやるのか?」

⇒ 「鳥獣対策は“捕獲”するためにやるのか」「狩猟者がやるのか」

鳥獣対策以外で“集落ぐるみ”で取り組んでいることがあるか?

地域で住民のコミュニケーションとれていますか?

自ら地域に一住民として参加していますか?



## 2. これまでの先進事例・優良事例の地域は今もやっているか

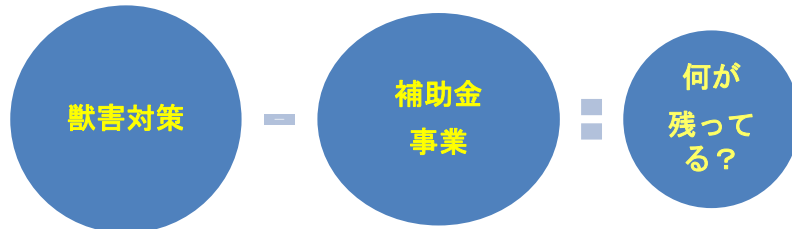
～中国地方 平成7年から今日まで・・・どうだったか、振り返ると・何が残っているか?～

診断書  $\boxed{\text{鳥獣対策}} - \boxed{\text{事業(捕獲)}} = \text{何が残ってる?}$

$\boxed{\text{地域づくり}} - \boxed{\text{事業}} = \text{何が残ってる?}$

珍現象・・・鳥獣害対策ブーム、地域づくりにもブーム “アイデアなき模倣”

### 私の「獣害対策の診断書」



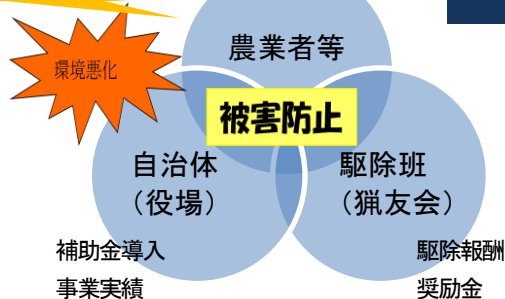
## 3. 狩猟と駆除の線引き

利害調整をどうするか? お金では解決しない問題

国・県の補助金事業(特措法)  
技術・管理計画等

経費労力負担軽減

3つの体質・  
利害関係の相違



4. 手段としての“捕獲”、そして位置づけ ～ おおち山くじらの目指すものは・・・ ～  
自分たちで地域の歴史を作る

イノシシの先にみる・・・  
ひとづくり・村づくり

山くじらと住民の接点を創る環境づくり

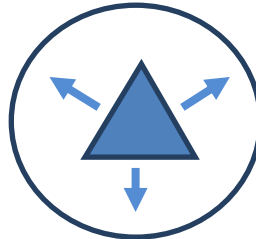


だれがやるのか？責任の所在は？

5. 14年近くの手法・考え方

主役は住民・・・主役を沢山つくる

(1) ▲ 山くじら生産者組合（旧邑智町駆除班など）



(2) 住民評価の環境 “主体性は誰なのか” “動機づけ”

